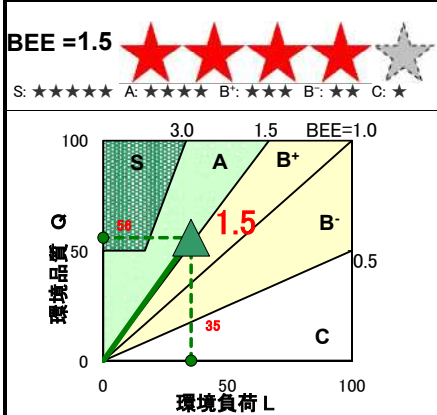
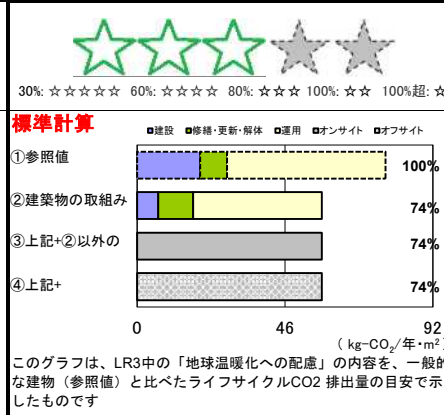


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 25019

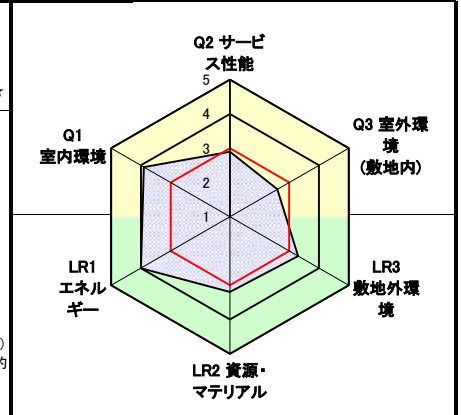
建築物名称	清水台住宅新築第1号工事
建築主	川崎市長 福田 紀彦
建築物の所在地	川崎市宮前区菅生4丁目1439番1ほか
設計者氏名、建築士事務所名	白井 勇 株式会社ポロスデザインシステム 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	3,633.52㎡
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上5階
工事完了予定年月	令和10年7月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要			1-2 外観		25019
建物名称	清水台住宅新築第1号工事		階数	地上5F	外観パース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください
建設地	川崎市宮前区菅生4丁目1439番1ほか		構造	RC造	
用途地域	第一種中高層住居専用地域・準住居地域・準防火地域		平均居住人員	115 人	
地域区分	6地域		年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	
建物用途	集合住宅		評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2028年7月	予定	評価の実施日	2025年8月25日	
敷地面積	6,251 m <sup>2</sup>		作成者	株式会社ポロデザインシステム	
建築面積	1,113 m <sup>2</sup>		確認日	2025年8月25日	
延床面積	3,634 m <sup>2</sup>		確認者	株式会社ポロデザインシステム	

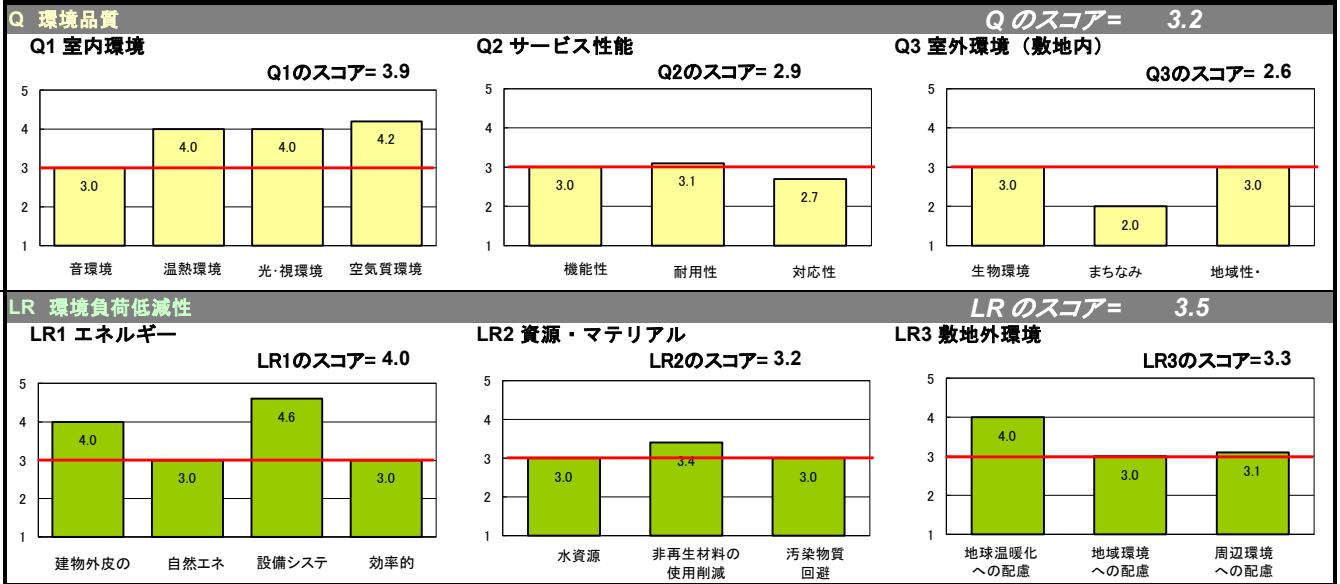
## 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&amp;チャート)

2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

## 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



## 2-4 中項目の評価(バーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.8
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		2.2/4.3	2.5
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.4
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 屋光利用設備 3.2 3.2.1 屋光制御	日本住宅性能表示基準「5-1 断熱等性能等級」における等級5 カーテンと庇によりグレアを制御	5.0/6.4	3.9
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		1.4/2.3	3.0
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	日本住宅性能表示基準「5-1 断熱等性能等級」における等級5 BEI:0.74	4.0/5.0	4.0
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避		3.1/4.7	3.3
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.4
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	劣化対策等級3、耐用年数の長い内装仕上材・配管材を使用	0.3/0.5	3.5
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	躯体と仕上材の分離が容易である	2.6/4.0	3.3
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.3
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		1.4/2.3	3.0
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	日本住宅性能表示基準「5-1 断熱等性能等級」における等級5 BEI:0.74	4.0/5.0	4.0
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 3.3

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	劣化対策等級3	0.1/0.1	5.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	日本住宅性能表示基準「5-1 断熱等性能等級」における等級5 BEI:0.74	4.0/5.0	4.0

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄					全体
	G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										3.2
Q1 室内環境							0.40		-	3.9
1 音環境						-	0.15	3.0	1.00	3.0
1.1 室内騒音レベル					—	-	-	3.0	0.50	
1.2 遮音					—	-	-	3.0	0.50	
1 開口部遮音性能					—	-	-	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能					—	-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					—	-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					—	-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音					—	-	-	-	-	
2 温熱環境						-	0.35	4.0	1.00	4.0
2.1 室温制御					—	-	-	4.0	1.00	
1 室温		W			住:日本住宅性能表示基準『5-1断熱等性能等級5』相当	-	-	-	-	
2 外皮性能					—	-	-	4.0	1.00	
3 ゾーン別制御性					—	-	-	-	-	
2.2 湿度制御					—	-	-	-	-	
2.3 空調方式					—	-	-	-	-	
3 光・視環境						-	0.25	4.0	1.00	4.0
3.1 昼光利用					—	-	-	4.0	0.50	
1 昼光率					住:2.0%以上	-	-	5.0	0.50	
2 方位別開口					—	-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		W			—	-	-	3.0	0.20	
3.2 グレア対策					—	-	-	4.0	0.50	
1 昼光制御		W			住:カーテン+庇(バルコニー)にて昼光制御	-	-	4.0	1.00	
3.3 照度					—	-	-	-	-	
3.4 照明制御					—	-	-	-	-	
4 空気質環境						-	0.25	4.2	1.00	4.2
4.1 発生源対策					—	-	-	5.0	0.63	
1 化学汚染物質					F☆☆☆☆建材をほぼ全面的に採用、VODの放散量が少ない	-	-	5.0	1.00	
4.2 換気					—	-	-	3.0	0.38	
1 換気量					—	-	-	3.0	0.33	
2 自然換気性能					—	-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮					—	-	-	3.0	0.33	
4.3 運用管理					—	-	-	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視					—	-	-	-	-	
2 喫煙の制御					—	-	-	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	2.9
1 機能性						3.0	0.40	3.0	1.00	3.0
1.1 機能性・使いやすさ					—	3.0	0.57	3.0	0.60	
1 広さ・収納性					—	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応					—	-	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画					—	3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性					—	-	-	3.0	0.40	
1 広さ感・景観					—	-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース					—	-	-	-	-	
3 内装計画					—	-	-	3.0	0.50	
1.3 維持管理					—	3.0	0.43	-	-	
1 維持管理に配慮した設計					—	3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保					—	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振					—	3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					—	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能					—	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					—	3.5	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			R		劣化対策等級3	5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			R		—	2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			R		耐用年数の長い内装仕上げ材を使用	4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			R		—	3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			R		耐用年数の長い配管材を使用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			R		—	2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性					—	3.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備					—	3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備					—	3.0	0.20	-	-	
3 電気設備					—	3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法					—	3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備					—	3.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性									3.0	0.30	2.7	1.00	2.7						
	3.1 空間のゆとり									-	-	2.4	0.50							
	1 階高のゆとり							-		-	-	2.0	0.60							
	2 空間の形状・自由さ							-		-	-	3.0	0.40							
	3.2 荷重のゆとり							-		-	-	3.0	0.50							
	3.3 設備の更新性									3.0	1.00	-	-							
	1 空調配管の更新性							-		3.0	0.20	-	-							
	2 給排水管の更新性							-		3.0	0.20	-	-							
	3 電気配線の更新性							-		3.0	0.10	-	-							
	4 通信配線の更新性							-		3.0	0.10	-	-							
5 設備機器の更新性							-		3.0	0.20	-	-								
6 バックアップスペースの確保							-		3.0	0.20	-	-								
Q3 室外環境(敷地内)											-	0.30	-	-	2.6					
1 生物環境の保全と創出										G	W			H	-	3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮										G					-	2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮															-	3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上															-	3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上										G	W			H	-	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性																-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー																-	0.40	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制											W			H	日本住宅性能表示基準『5-1断熱等性能等級5』相当	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用											W			H	-	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化											W			H	BEI:0.74	4.6	0.50	-	-	4.6
集合住宅以外の評価															-	-	-	-	-	
集合住宅の評価															4.6	1.00	-	-	-	
4 効率的運用															3.0	0.20	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価															-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング											W			H	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制											W			H	-	-	-	-	-	
集合住宅の評価															3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング											W			H	-	3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制											W			H	-	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル																-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護											W			R		3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水															-	3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用															-	3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無															-	3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無															-	3.0	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減																3.4	0.60	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減											W			R	-	3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用											W			R	-	3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用											W			R	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用											W			R	-	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材											W			R	-	3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み											W			R	躯体と仕上材の分離が容易である	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避																3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用															-	3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避															-	3.0	0.70	-	-	
1 消火剤											W				-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)											W				-	3.0	1.00	-	-	
3 冷媒											W				-	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境																-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮											W				消費エネルギー量削減により運用時のLCCO2排出量低減に配慮	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮																3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止															-	3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善										G	W			H	-	3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制															-	3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減														R	-	3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制														R	-	3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制														R	-	3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制														R	-	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮																3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止															-	3.0	0.40	-	-	
1 騒音															-	3.0	1.00	-	-	
2 振動															-	-	-	-	-	
3 悪臭															-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制															-	3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制															-	3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制															-	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制															-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制															-	3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策															「光害対策ガイドライン」のチェックリストの項目を一部満たし、広告物照明を行っていない	4.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策															-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	-	2.0	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	3.0	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0	-	-	○	○	-	○	-	○	○	-	-	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	7.0	-	-	-	3.0	-	1.0	1.0	1.0	-	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0	-	-	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	11.0	-	-	3.0	1.0	3.0	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	11.0	-	1.0	-	-	3.0	3.0	-	-	1.0	3.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	-	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

## 主な指標

## Q1 室内環境

## 2.1.3 外皮性能

窓システムS(窓の日射熱取得率(η) -	U値(W/m2K) 窓システム -	屋根 -	外壁 -	床 -
住戸部分システムU値 -	外皮UA値 -	ηAC -	ηAH -	
昼光率 2.7%				
自然換気有効開口比 0.0%				

## 3.1.1 昼光率

## 4.2.2 自然換気性能

## Q2 サービス性能

## 1.1.1 広さ・収納性

## 1.1.2 高度情報通信設備対応

## 1.2.1 広さ感・景観

## 1.2.2 リフレッシュスペース

## 2.2.1 躯体材料の耐用年数

## 2.2.2 外壁仕上材の補修必要間隔

## 2.2.3 主要内装仕上材の更新必要間隔

## 2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

## 3.1.1 階高のゆとり

## 3.1.2 空間の形状・自由さ

## 3.2 荷重のゆとり

執務スペース .0㎡ /人 病床 .0㎡ /床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡	
コンセント容量 0.0 VA/㎡	
天井高 2.3m m	
リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%	
想定耐用年数 0 年	
想定必要間隔 0 年	
想定必要間隔 0 年	
想定必要間隔 0 年	
想定必要間隔 0 年	
階高 0 m	
壁長さ比率 0.0%	
床荷重 - N/m2	

## Q3 室外環境(敷地内)

## 1 生物資源の保全と創出

## 3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数 60%	建物緑化指数 0%				
空地率 81%	水平投影面積率 17%	地表面対策面積率 55%	舗装面積率 0%		

## LR1 エネルギー

## 1 建物外皮の熱負荷抑制

## 2 自然エネルギー利用

BPI/BPI <sub>m</sub> - 日射等性能等級 等級5 相当					
自然エネルギー直接利 0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数 0	採光を満たす住戸数 0			
	通風を満たす教室数 0	通風を満たす住戸数 0			
	太陽光 #REF!	太陽熱等 #REF!	蓄電池 #REF!		
BEI/BEI <sub>m</sub> 再エネ - 無 -	オフサイト再エネ有 -	-	-		
一次エネ削減 再エネ 26%	無 26%	-			

## LR2 資源・マテリアル

## 1.2.1 雨水利用システム導入の有無

## 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

## 2.5 持続可能な森林から産出された木材

## 3.2.1 消火剤

## 3.2.2 発泡剤(断熱材等)

## 3.2.3 冷媒

雨水利用率 0.0%					
特定調達品E 押出ポリスチ エコマーク商品 -	自治体指定の特定品目等 -				
使用比率 0.0%					
オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)					
オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)					
オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)					

## LR3 敷地外環境

## 2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 83% 棟間隔指標Rw 3.97					
地表面対策面積率 74.7%	屋根面対策面積率 0.0%	外壁面対策面積率 0.0%			
見付面積Sb 687㎡ 越風向と直交する最大敷地幅Ws 84.779 m	基準高さHb 9.77 m				
緑地 ##### 水面 ㎡	保水性対策面 ㎡	高反射対策面 ㎡	再帰性反射対策面 ㎡		